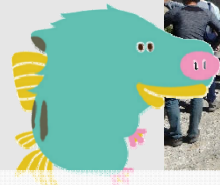


市民部会

「マイクロプラスチック」、
「ネオニコチノイド系農薬」に関する公開講座を開催



山部会

資料4

根羽村、豊田市、
恵那市、岡崎市で
フィールドワークを実施



矢作川流域圏懇談会 第11回 全体会議

川部会 抜粋

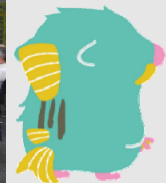
海部会

西尾市東幡豆海岸にて、
現地の生き物やゴミの状況を視察



川部会

鵜の首地区の掘削場所や時瀬地区の置土箇所を見学



国土交通省 中部地方整備局
豊橋河川事務所
山・川・海 流域一体で川づくり
矢作川流域圏懇談会



川部会の活動進捗報告 | 令和3年度の当初目標

《令和3年度の当初目標》

これまでのテーマについて、引き続き情報共有と意見交換を行う。

<テーマ>

上下流問題
(生き物の棲みやすい
川づくり)

地先の問題

<解決手法>

①本川モデル

- ・土砂や川の形、生物の視点からの川の望ましい像に関する意見交換
- ・置土実験に関する情報共有
- ・川部会が抱える課題の他部会への発信(バスツアーなどにおいて)

②支川モデル

- ・水系の河川情報の集積(生物・防災・管理者の境界)
- ・川沿いウォークの実施(町中・山中の川沿いを歩くことも含める)

③地域連携モデル

- ・ごみ問題に関する情報共有
- ・外部団体(生態系ネットワーク協議会等)との連携

川部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動スケジュール

川部会の活動として、WGを3回、まとめの会を1回開催した。

活動（参加者数）	日時	場所
第56回WG（18名）	6月22日（火） 13:30-16:45	豊田市崇化館交流館 4階 第2会議室
第57回WG（22名）	8月17日（火） 13:30-17:05	鵜の首地区（野見山展望台、水源橋） 豊田市崇化館交流館 3階 第1研修室
第58回WG（31名）	11月19日（金） 9:00-17:40	置土実験箇所（時瀬地区・越戸ダム下流） 初音川ビオトープ 豊田市崇化館交流館 3階 第1研修室
第13回川部会 まとめの会（23名）	1月14日（金） 14:00～16:00	豊田市崇化館交流館 3階 第1研修室

※参加人数はオンライン参加者、事務局含む

川部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動成果

①本川モデル | 今年度の活動方針に対する進捗状況

＜土砂や川の形、生物の視点からの川の望ましい像に関する意見交換＞

- 事務局より、置土実験の概要や、鵜の首地区水位低下対策事業の推進と事業効果について、情報共有を行った。同時に、土砂の流れによる河床形態の仕組みと、矢作川下流域に形成される砂州の状況について、土砂水理学を専門とする溝口教授よりご講義をいただき、理解を深めた。また、これらの理解をさらに深めるため、現地視察を実施し、川の望ましい像に関する意見交換を行った。



講義の風景



鵜の首地区での現地視察



時瀬置土実験地における現地視察



越戸ダム下流置土実験地における現地視察

川部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動成果

①本川モデル | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<事業概要等に関する情報共有>

- 国土交通省が推進する「矢作川流域治水プロジェクト」について、情報共有と意見交換を行った。

<川部会が抱える課題の他部会への発信(バスツアーなどにおいて)>

- バスツアーに関して、計画時との時間的経過を考慮し、最新の情報に基づいて議論を行った。



矢作川流域治水プロジェクトの説明風景

2日目 令和3年11月26日(金)

時刻	場所	詳細	担当部会
8:45集合	豊田市駅		
9:00出発			
	↓	移動(20分) 鶉の首地区水位低下対策箇所の見学を追加	
9:20到着	明治用水頭首工 (豊田市室町)	明治用水頭首工における治水・利水の問題について(30分) 解説: 落河崇征様 (豊田市河川課 副課長)	川部会
9:50出発			
	↓	移動(10分)	
10:00到着	安永川トンネル (豊田市今町)	安永川トンネルに関する治水の問題や魚の移動経路(30分) 解説: 落河崇征様 (豊田市河川課 副課長)	川部会
10:30出発			
	↓	移動(10分)	
10:40到着	家下川 (豊田市樹塚東町)	家下川でのこれまでの取り組みについて(45分) 解説者: 酒井博嗣様 (豊田市文化財課)	川部会
11:25出発			

バスツアーのスケジュールの再検討結果

川部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動成果

②支川モデル | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<水系の河川情報の集積(生物・防災・管理者の境界)>

- 逢妻男川の支流の初音川において、ビオトープ施工箇所の現地視察を行い、造成の経緯、愛護会の活動、整備の状況について豊田市矢作川研究所金田氏、洲崎氏よりご紹介いただいた。また、現地で確認された生物に関して、参加者より説明と意見交換が行われた。



初音川ビオトープ現地視察風景（左：生物の確認風景、右：物理性（魚道）の確認風景）

川部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動成果

③地域連携モデル | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<ごみ問題に関する情報共有>

- マイクロプラスチックに関する公開講座の開催において、川部会関係者が懇談会内外への発信を行った。また、公開講座に参加し、ディスカッションを積極的に行った。

<外部団体（生態系ネットワーク協議会等）との連携>

- 部会員より西三河南部生態系ネットワークとの交流に関する紹介を受けた。次年度は、西三河生態系ネットワーク等、その他の生態系ネットワークとのつながりを模索する予定である。



公開講座のディスカッションの様子



外部団体との連携手法に関する意見交換

川部会の今年度の活動目標

今年度の活動目標（案）

- 土砂をキーワードに他部会を巻き込んだ情報共有と意見交換を行うとともに、昨今頻発する自然災害や環境の悪化に注目し、矢作川の望ましい姿を検討する。

テーマ別の活動方針（例）

①本川モデル

- 流域における土砂の役割を再認識するとともに、山・川・海の立場に共通する望ましい条件を抽出し、関係する国や自治体に、その条件を共有する
- 鵜の首地区水位低下対策事業（砂の掘削）、干潟造成箇所（掘削で生じた砂の造成）について、海部会と合同で状況を把握し、双方の利益に関する意見交換を行う。また、より好ましい事業に向けて、関係者への働きかけを行う

②支川モデル

- 支川で活動する団体を訪問し、流域における支川の役割をとりまとめる（川部会の記録として残す）

③地域連携モデル

- ごみ問題に関する情報共有を行う
- 外部団体（生態系ネットワーク協議会等）と連携する